

第454回鉄鋼流通問題懇談会

2021年7月29日（木）14:30
Microsoft Teams によるリモート開催

議 題

△経済産業省新任担当官 ご紹介 松野大輔 金属課長
△ ” 佐藤俊輔 金属課長補佐

1. 配布資料説明（全鉄連）

2. 全鉄連情勢報告

（1）地区の状況

○東京、大阪地区概況報告

（2）その他地区の概況

○鉄流懇7月例会で発表の各地区業況アンケート結果

（3）総括：阪上全鉄連会長

○次回以降会議予定

2021年10月27日（水）14:30～ 於：茅場町「鉄鋼会館802+803+804」

※新型コロナウイルス感染症状況により会議形式など変更になる場合がございます。

予めご了承くださいるようお願いいたします。

3. 意見交換
4. 経済産業省挨拶
5. 鉄流懇会長挨拶
6. その他

鉄鋼流通問題懇談会 品種別動向について（2021年7月）

発表項目 1. 概動向（概況）	鋼管 メタルワゴン	薄板 住友商事グローバルメタルズ	厚板 阪和興業	棒鋼・形鋼 日鉄物産
	<p>（店売り分厚）上期の出荷量はコロナ影響を大きく受けた昨年度比で+10%程度増加しているが、19年比では▲10-20%減少している状況。他方、下期販売は高まっているが、高炉・溶協共におり期待感が高まっているが、高炉・溶協共に供給が逼迫している状況で、特約店の在庫積み増しが困難な状況。また、高炉・溶協共に値上げ基調を強めており、21年秋迄の50円/kg値上げに向け、21年1-6月迄で概ね20円/kg値上げを実行済み。</p>	<p>2021年5月末の薄板三品在庫は、前月末比で22万2千トン増の390万6千トンとなった。昨年8月以来、9か月ぶりに390万トン台となった。在庫内訳は、メーカ在庫が前月比95千トン増の181万4千トン、問屋在庫が同6万6千トン増の80万トン、コイルセンター在庫が同6万1千トン増の129万2千トンとなった。在庫率は2.33ヶ月となり、前月比2.17ヶ月からは若干上昇したものの、20年度下期平均2.27ヶ月と同レベルの水準で推移しており、相場に変化はない。</p> <p>5月の全国のコイルセンター出荷量は100万トンで、日当たりでは大きな変化はなく生産と出荷がバランスした状態が続いている。</p>	<p>5月末の全国厚中板在庫は362千トンで前月比2.316トン増。受け入れ量が前回を上回った結果、3ヶ月連続の在庫増となった。在庫率は全国平均で前月比10.5ポイント上がり、243.4%と、適正在庫率と比べ200%を大幅に上回っている状況が続いている。</p> <p>需要に関しては、建機分野は年度に引き続き好調。造船・造船等も主要各分野で供給が戻るスピードには差があるが、回復傾向にある。一方で供給面で母材時期が長期化しており、タイロ感が増している。各高炉メーカでの厚板母材価格は大幅に上昇しており、製品価格への転嫁も徐々に進んでいる。</p>	<p>棒鋼：4月/5月の鉄鋼協同社発注進捗率は210千t/230千tとそれぞれ前月を上回る実績となった。5月連発の味はメタルワゴン市況の急落があり、動向市況もこれらを受けて急落を見せたが、セネコン各社（鉄鋼協同社の急伸に発注確保）の駆け込みで流通に留まっていた明細が発表された程度の規模。大型物件など本格発注はこれからであり、メーカへの激しい価格交渉が懸念される。</p> <p>形鋼：流通目標の1つである7月のときと発表表において、形鋼日影響はあるものの、約半年ぶりに在庫量が7万t台に回復し、在庫量は4か月ぶりに20万t台を切った。日当り出荷は2か月連続で前年同月比増加となり需要の底入れが向える。価格も3か月連続で値上げを発表。市況価格の改善スピードは鈍いペースで推移している。</p>
2. 需要業動向	<p><建築・土木>4月の新設住宅着工戸数は、前年同月比7.1%増の7万4,521戸で、2カ月連続の増加。分譲は0.3%減少、持家は8.8%増加、貸家は13.6%増加し、全体でも増加となった。</p> <p><自動車>3月の国内生産台数は、前年同月比4.9%増の86万9,000台だった。3カ月ぶりのプラス。乗用車とトラック共に前年同月比で増加した。OEM各社、上期の半導体不足影響の減産分を、下期で挽回する計画ではあるが、先行きは不透明。</p> <p><建設>4月の建設機械出荷金額は、内需は1.7%減の576億円、外需は67.2%増の1,494億円となった。その結果、内需は4カ月連続の減少、外需は6カ月連続の増加となった。総合計では37.6%増加の2,069億円となり、6カ月連続の増加となった。</p> <p><造船>4月の鋼材受注・造船受注は、受注は3隻、起工22隻、竣工16隻、竣工船価は545億円(前年同月比▲50.0%減)であった。</p>	<p>2021年5月の自動車国内販売は、31万9千台（前年同月比46.3%増）と、昨年10月以降8ヶ月連続で前年比プラスとなっている。乗用車が23万8千台（同48%増）、トラックが5万5千台（同30.2%増）となった。5月の民生用電気機器の内出荷金額は、2,130億円、前年同月比109.5%と8ヶ月連続のプラス、ルームユアーク、電気洗濯機は8ヶ月連続のプラス、電気冷蔵庫も2ヶ月連続のプラスとなった。外出口商により、景気も需要が継続している。また消費者の健康意識の高まりから、空気清浄機も引き続き高水準となり、5月単月として過去最高の出荷金額となった。国内交通用車に代表される5月の新設住宅着工戸数は17万戸（前年同月比9.9%増）であった。3月以降、3ヶ月連続で前年同月比プラスに転じるも、前々年対比では3.3%のマイナス、持家は前年同月比16.2%増と7カ月連続増加。貸家は同4.3%増の3ヶ月連続増加（また、季節調整済年率換算値では前月比0.9%の減少と、5か月ぶりの減少となった。）</p>	<p>5月の輸入通関実績は前月比14千トン減の30千トン。中国からの入荷は無く、韓国が27千トン（前月比13千トン減）、台湾が2.8千トン（前月比0.5千トン減）となった。5月の輸出総額実績198千トン（前月比23千トン減）。中国向けが25千トン減、韓国向けはほぼ横ばい、台湾向けは6千トン減、東南アジアではベトナム向け12千トン増、シンガポール向け5千トン減となった。</p> <p>5月の輸入通関実績は前月比14千トン減の30千トン。中国からの入荷は無く、韓国が27千トン（前月比13千トン減）、台湾が2.8千トン（前月比0.5千トン減）となった。5月の輸出総額実績198千トン（前月比23千トン減）。中国向けが25千トン減、韓国向けはほぼ横ばい、台湾向けは6千トン減、東南アジアではベトナム向け12千トン増、シンガポール向け5千トン減となった。</p>	<p>5月実績 異形棒鋼 49,700Mt（前月比 101.1% 前年同月比 141.7%） 形鋼 36,833Mt（前月比 89.2% 前年同月比 71.4%） 棒鋼は韓国への輸出が激減（韓国国内市場高起） <輸入> 5月実績 異形棒鋼 1,798Mt（前月比 41.8% 前年同月比 61.7%） 形鋼 5,458Mt（前月比 94.0% 前年同月比 111.8%） 他国の国内相場に比し、日本国内相場の上昇基調が反映され、輸入数量は鈍化推移 建設関連最大需要地である中国において、不動産分野では、デベロッパへの融資規制により資金調達が制限されているため、不動産建設規模、新規着工の案件数は大きく減少しつつあり、一部の大型デベロッパの資金不足と相まって、建設プロジェクトの進捗が鈍化している。但し、季節要因で、9-11月に（冬場に向けた）駆け込み需要が現れ、冬場に向けては、インフラ建設は、足元は資金制約で徐々に進まない状況だが、新規特別債の発行は300(7~9月)に加えて、インフラ建設向けの資金不足状況は40(10~12月)に改善されると期待され、下期のインフラ建設向けの需要は上期を上回るとの見通し。</p>
3. 輸出入動向	<p>2021年5月鋼管輸出 継目無鋼管： 8,482トン（前月比▲18.7%） 溶接鋼管：1万8,546トン（前月比▲8.7%） 2021年5月鋼管輸入 継目無鋼管： 1,297トン（前月比▲20.6%） 溶接鋼管： 9,648トン（前月比▲1.2%）</p>	<p>5月の薄板三品輸入量は23万5千トン（前年同月比9.1%増）であった。主要品種別では、熱延鋼板が8万6千トン（同12%減）、冷延鋼板が7万5千トン（同18.9%増）、亜鉛めっき鋼板が7万4千トン（同35.5%増）となっている。5月末の輸入岸壁在庫は13万1千トンで、前月比で4千トン増となり5か月連続の増加、前年同月比では22.9%の減少。</p>	<p>中国は好調で、鋼材の輸出が急増。韓国も造船会社受注が調、日本を含めたどのメーカーもSPOT稼が不出ない。中国は急上昇、季節要因で一時的に減少基調も、中国の減産措置強化見込み、輸出税約10%減、韓国、前10月からの中国の内需回復が見込まれ、市況は先高値から上昇傾向。</p> <p>韓国メーカは21年1-6月の販売量は445万5千トンで前年同月比0.6%増、国内販売量は336万7千トンで前年同月比7.1%増、輸出量は108万8千トンで前年同月比15.3%減少。中国向けからの回復は国内は過剰を中心とした需要増加も間わらず、生産量が大幅増加にとまったりえ、価格高騰で輸入量が大幅に減少して、価格がタイトになって、流通価格が高騰</p>	<p>5月実績 異形棒鋼 49,700Mt（前月比 101.1% 前年同月比 141.7%） 形鋼 36,833Mt（前月比 89.2% 前年同月比 71.4%） 棒鋼は韓国への輸出が激減（韓国国内市場高起） <輸入> 5月実績 異形棒鋼 1,798Mt（前月比 41.8% 前年同月比 61.7%） 形鋼 5,458Mt（前月比 94.0% 前年同月比 111.8%） 他国の国内相場に比し、日本国内相場の上昇基調が反映され、輸入数量は鈍化推移 建設関連最大需要地である中国において、不動産分野では、デベロッパへの融資規制により資金調達が制限されているため、不動産建設規模、新規着工の案件数は大きく減少しつつあり、一部の大型デベロッパの資金不足と相まって、建設プロジェクトの進捗が鈍化している。但し、季節要因で、9-11月に（冬場に向けた）駆け込み需要が現れ、冬場に向けては、インフラ建設は、足元は資金制約で徐々に進まない状況だが、新規特別債の発行は300(7~9月)に加えて、インフラ建設向けの資金不足状況は40(10~12月)に改善されると期待され、下期のインフラ建設向けの需要は上期を上回るとの見通し。</p>
4. 海外市場動向	<p><油井管>原油価格の上昇に引張り張られる形で徐々に米国のリグダウンも回復。これはIIRC価格の急伸の影響もあり、油井管市況は急速に高騰、明細によっては供給が逼迫しているものも出てきている。</p> <p><ライニングパイプ>原油価格の上昇もあり、大型案件の進捗もあり、且つ新規開発案件についても進捗している。案件の投資決定までは今少し時間を要する見込みではあるが、年内には一定の供給ひっ迫が想定される。</p>	<p>世界鉄鋼協会がまとめた世界64カ国・地域の5月の粗鋼生産量は、前月比2.9%増、前年同月比16.5%増の7440万トンとなり、10ヶ月連続で前年同月を上回った。中国は前年同月比6%増の9950万トンと1億トンの追い、インド、日本、米国も同4割以上増加した。コロナ禍からの経済回復により世界で減産需要が伸び、今年に入り海外市場は上昇を続けた。5月中旬以降アジアの市況は上昇ペースが鈍化した。中国の減産政策によりアジア鋼材価格が今後タイト化に向かう一方で、アジア諸国の直近の感染拡大は逆に作用すると見られる。</p>	<p>中国は好調で、鋼材の輸出が急増。韓国も造船会社受注が調、日本を含めたどのメーカーもSPOT稼が不出ない。中国は急上昇、季節要因で一時的に減少基調も、中国の減産措置強化見込み、輸出税約10%減、韓国、前10月からの中国の内需回復が見込まれ、市況は先高値から上昇傾向。</p> <p>韓国メーカは21年1-6月の販売量は445万5千トンで前年同月比0.6%増、国内販売量は336万7千トンで前年同月比7.1%増、輸出量は108万8千トンで前年同月比15.3%減少。中国向けからの回復は国内は過剰を中心とした需要増加も間わらず、生産量が大幅増加にとまったりえ、価格高騰で輸入量が大幅に減少して、価格がタイトになって、流通価格が高騰</p>	<p>5月実績 異形棒鋼 49,700Mt（前月比 101.1% 前年同月比 141.7%） 形鋼 36,833Mt（前月比 89.2% 前年同月比 71.4%） 棒鋼は韓国への輸出が激減（韓国国内市場高起） <輸入> 5月実績 異形棒鋼 1,798Mt（前月比 41.8% 前年同月比 61.7%） 形鋼 5,458Mt（前月比 94.0% 前年同月比 111.8%） 他国の国内相場に比し、日本国内相場の上昇基調が反映され、輸入数量は鈍化推移 建設関連最大需要地である中国において、不動産分野では、デベロッパへの融資規制により資金調達が制限されているため、不動産建設規模、新規着工の案件数は大きく減少しつつあり、一部の大型デベロッパの資金不足と相まって、建設プロジェクトの進捗が鈍化している。但し、季節要因で、9-11月に（冬場に向けた）駆け込み需要が現れ、冬場に向けては、インフラ建設は、足元は資金制約で徐々に進まない状況だが、新規特別債の発行は300(7~9月)に加えて、インフラ建設向けの資金不足状況は40(10~12月)に改善されると期待され、下期のインフラ建設向けの需要は上期を上回るとの見通し。</p>

鉄鋼流通問題懇談会（2021年7月）

発表者	発表項目
発表者	<p style="text-align: center;">メーカー J F E スチール</p> <p>1. 需給動向（景況感）</p> <p>（国内）・6月の日銀短観では企業の景況感を表す業況判断指数（DI）が大企業・製造業で+1.4と前回3月調査から+9ポイントとなり、4期連続で改善となった。好調な外需が追い風となり多くの業種で改善が継続する一方で、半導体不足影響を受けた自動車では悪化した。先行きについては+1.3と1ポイントの悪化。コロナ禍における先行き不透明感に加え、原材料価格高騰への懸念も聞かれる。</p> <p>2. 1年度設備投資計画は大企業では前年度比+9.6%。ウイズ/アフターコロナの経済活動に適応するための設備投資や2.0年度からの持ち越しがあると考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家計部門については5月の小売業販売額は前年同月比+8.2%と3ヶ月連続で増加した。但し、前年は14日目の緊急事態宣言の時期にあたり、1.9年5月比では▲5.3%となっている。基調判断は「横ばい傾向にある」と据え置いた。 ・製造部門では5月自動車生産が半導体影響もあり前月比▲30.4%と大幅減、一方機械受注は+7.8%と3か月連続の増。 ・建築部門では5月の全建築物建築着工床面積は3か月連続の前年同月比増となった。 <p>（海外）・感染症抑制状況や経済対策により国・地域ごとに濃淡はあるものの、総じて回復している。供給面のネックにより、インフレが進み金融市場の混乱を招く恐れや、新たな変異株の出現可能性など、不透明感は依然として残るもの、リスクは徐々に低減してきている。</p> <p>米国：経済対策により力強い回復が想定される一方で、労働量等の供給制約からインフレが進み、金融市場の混乱を招く恐れがある。</p> <p>中国：民間消費と設備投資に支えられ、経済は堅調に推移するが、各政策がインフラや不動産投資をややスローダウンさせる見込み。</p> <p>ASEAN：域内各国の経済回復は進むが、一部の国でコロナ感染再拡大が見られるなど、ワクチン接種の遅れは懸念材料</p> <p><国内鉄鋼需給></p> <p>（生産）・2.1年6月の粗鋼生産は81.1万t（前年同月比+4.4%）と前年同月比で4ヶ月連続の増加となった。</p> <p>（出荷）・5月の普通鋼国内向け出荷は32.1万トン（前年同月比+2.1%）で3ヶ月連続の増。輸出向け出荷は18.7万トン（同+2.1%）と1.3ヶ月振りに増加に転じた。</p> <p>（在庫）・5月末の普通鋼鋼材国内向け在庫は5.5万トン（前月比+2.6万トン）、2ヶ月連続の増加。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月末の薄板3品在庫は3.9万トン（同+2.2万トン）と2ヶ月連続の増加。 ・5月末の厚板シャワー在庫は3.6万トン（同+0万トン）とほぼ横ばいも2か月連続の増加。 <p>〔建築〕・5月の新設住宅着工戸数は7.0万戸（前年同月比+9.9%）で3ヶ月連続の増加。持家・分譲・貸家いずれも増加。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非住宅着工床面積は42.8万㎡（同+5.3%）で3か月連続の増加。公務文教は減も鉱工業等で増加。 <p>〔自動車〕・6月の国内販売（輸入車除く）は32.8万台（前年同月比+1.9%）。4か月連続のプラス。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月の完成車輸出は26.7万台（同2.2倍）で3ヶ月連続のプラス。各地域とも大幅な増加となった。 ・5月の四輪生産（速報）は50.2万台（同+6.3%）で3ヶ月連続のプラス。ただし前月比では▲2.2万台の大幅減。 <p>〔造船〕・6月の新造船受注量は210万GTの受注、6月末の手持工事量は1,807万GTと8か月連続で増。</p> <p>〔輸出〕・5月の企鉄鋼輸出は27.8万トン（前年同月比+1.2%）で1.3ヶ月ぶりの増加。</p> <p>〔輸入〕・5月の鋼材輸入（普通鋼・ステン鋼・その他合金鋼計）は3.6万トン（前年同月比▲5.5%）で4か月連続の減少。</p> <p>韓国は5か月連続で増加したものの、台湾、中国は2か月ぶりに減少に転じた。</p> <p>4. 海外市場動向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月の世界粗鋼生産は1億5,898万トン（前年同月比+1.1.6%）と1.1ヶ月連続の増加。 ・6月の中国粗鋼生産は9,388万トン（同+2.5%）。6月中旬以降、環境規制と見られる粗鋼生産抑制の動きあり。（前月比▲557万t） ・6月の中国鋼材輸出は64.6万トン（同1.7倍）増値税還付率引き下げ前の駆け込みが落ち着いた5月から一転して増加（+11.9万t） <p>中国政府の関税対策動向を注視。</p>